

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【令和4年5月】

■調査概要（データ対象期間：令和4年5月1日～5月31日）

○調査期間：令和4年5月30日～令和4年6月20日

○調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査

○回収状況：建設業21企業、製造業20企業、卸売業13企業、小売業23企業

飲食業14企業、サービス業42企業（運輸、不動産仲介業を含む）

<合計133企業>

○調査項目：5月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価

状況向こう3ヵ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI(Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準と

して、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下

向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示す

ものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DIはマイナスからプラスに転じ、水準DIはマイナス幅の縮小

1. 業況判断

○全産業合計の業況DI(前年同月比ベース)は、前月(▲4.0)よりマイナス幅が4.8ポイント縮小し、0.8となった。業種別では、卸売業はプラス幅が縮小した。小売業は0からプラスになり、サービス業マイナスからプラスに転じた。製造業はマイナス幅が縮小し、飲食業、建設業はマイナス幅が拡大した。

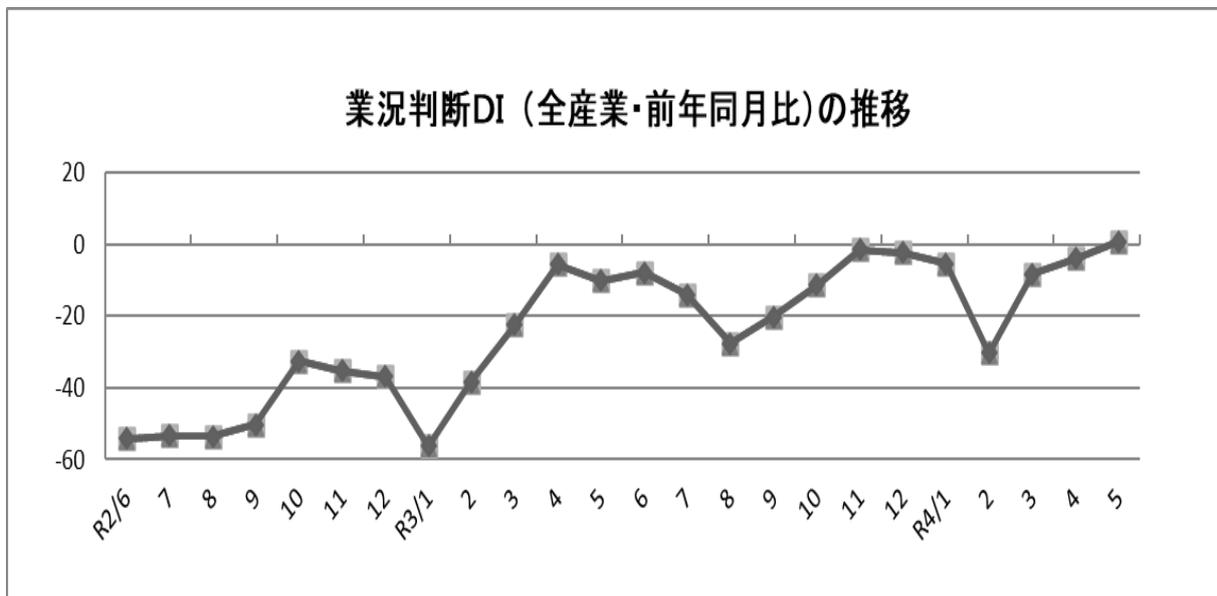
○全産業合計の水準DIは、前月(▲17.8)よりマイナス幅が1.2ポイント縮小し、▲16.6となった。業種別では、卸売業はプラス幅が縮小した。小売業はマイナスからプラスに転じた。サービス業はマイナス幅が縮小し、飲食業、製造業、建設業はマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	22.6 (21.8)	55.6 (52.4)	21.8 (25.8)	0.8 (▲4.0) ↗	15.0 (16.1)	53.4 (50.0)	31.6 (33.9)	▲16.6 (▲17.8) ↗
建設業	0.0 (5.3)	76.2 (78.9)	23.8 (15.8)	▲23.8 (▲10.5) ↘	0.0 (5.3)	76.2 (84.2)	23.8 (10.5)	▲23.8 (▲5.2) ↘
製造業	20.0 (11.1)	35.0 (50.0)	45.0 (38.9)	▲25.0 (▲27.8) ↗	15.0 (16.7)	30.0 (44.4)	55.0 (38.9)	▲40.0 (▲22.2) ↘
卸売業	38.5 (45.5)	53.8 (45.4)	7.7 (9.1)	30.8 (36.4) ↘	23.1 (45.5)	61.5 (36.3)	15.4 (18.2)	7.7 (27.3) ↘
小売業	30.4 (31.8)	56.6 (36.4)	13.0 (31.8)	17.4 (0.0) ↗	26.1 (22.7)	52.2 (40.9)	21.7 (36.4)	4.4 (▲13.7) ↗
飲食業	21.4 (28.6)	50.0 (35.7)	28.6 (35.7)	▲7.2 (▲7.1) ↘	7.1 (14.3)	42.9 (35.7)	50.0 (50.0)	▲42.9 (▲35.7) ↘
サービス業	26.2 (20.0)	57.1 (57.5)	16.7 (22.5)	9.5 (▲2.5) ↗	16.7 (10.0)	54.7 (50.0)	28.6 (40.0)	▲11.9 (▲30.0) ↗

()内は前月データ

※「業況[前年同月比]」…前年同月の業況との比較による回答の集計
「今月の水準」…事業主の方の主観による回答の集計



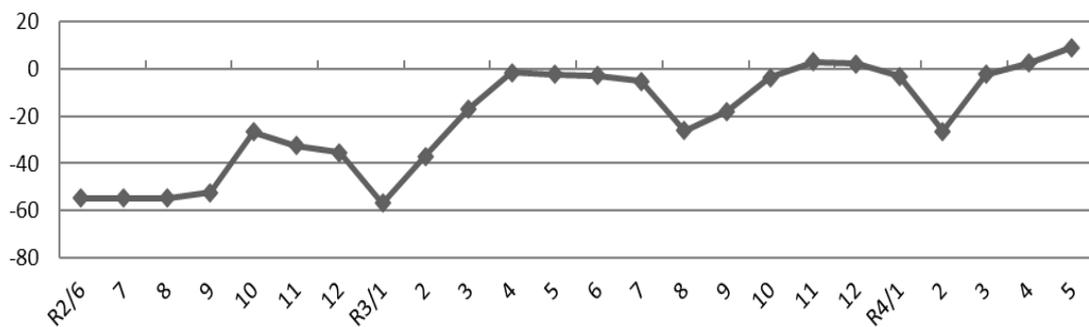
2. 売上高DI（前年同月比）

○全産業合計の売上高DIは、前月(2.4)よりプラス幅が6.6ポイント拡大して、9.0となった。業種別に見ると、小売業、サービス業はプラス幅が拡大し、卸売業はプラス幅が縮小した。飲食業は0からプラスになった。製造業はマイナス幅が縮小し、建設業はマイナス幅が拡大した。

【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	R3年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月
全体	▲ 2.2	▲ 2.9	▲ 5.1	▲ 26.1	▲ 17.9	▲ 3.5	3.0	2.3	▲ 3.1	▲ 26.5	▲ 2.3	2.4	9.0
建設業	▲ 33.4	▲ 18.2	▲ 26.3	▲ 25.0	22.2	▲ 4.5	15.8	▲ 5.5	▲ 15.8	▲ 23.8	▲ 25.0	▲ 15.8	▲ 19.1
製造業	16.7	25.0	35.0	22.7	4.6	10.0	▲ 5.2	▲ 5.0	10.5	▲ 52.7	0.0	▲ 16.6	▲ 10.0
卸売業	10.0	7.7	▲ 10.0	▲ 25.0	0.0	7.7	9.1	8.3	40.0	40.0	23.1	54.5	23.1
小売業	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 13.6	▲ 48.2	▲ 45.9	20.9	13.0	9.1	4.4	▲ 28.0	4.2	4.5	26.1
飲食業	▲ 31.3	▲ 10.0	▲ 25.0	▲ 82.4	▲ 61.1	▲ 17.6	5.3	16.6	▲ 50.0	▲ 80.0	▲ 35.3	0.0	7.2
サービス業	13.6	0.0	0.0	▲ 15.0	▲ 17.5	▲ 20.5	▲ 7.1	▲ 2.5	0.0	▲ 12.0	9.8	5.0	19.0

売上高DI（全産業・前年同月比）の推移



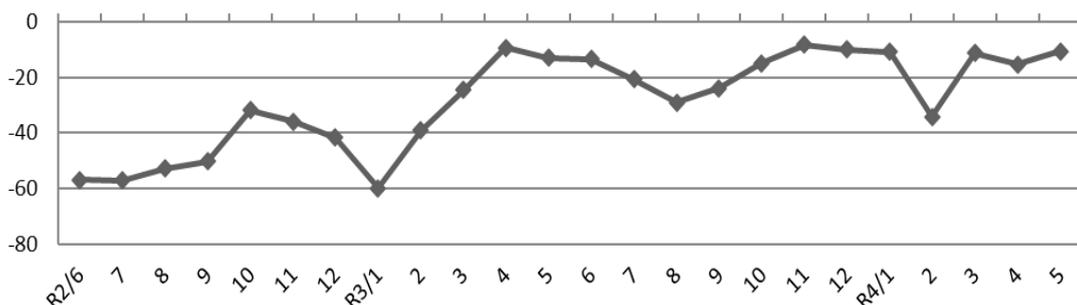
3. 営業利益DI（前年同月比）

○全産業合計の営業利益DIは、前月(▲15.4)よりマイナス幅が4.8ポイント縮小して、▲10.6となった。業種別に見ると、卸売業はプラス幅が縮小した。小売業は0からプラスになった。サービス業はマイナスからプラスに転じた。飲食業はマイナスのまま横ばいとなり、製造業、建設業はマイナス幅が拡大した。

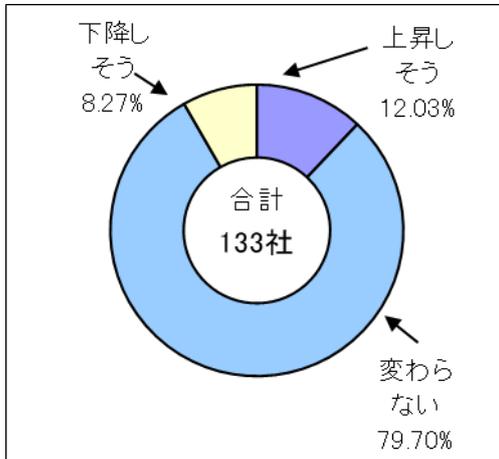
【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	R3年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月
全体	▲ 13.0	▲ 13.5	▲ 20.8	▲ 29.0	▲ 23.9	▲ 15.0	▲ 8.3	▲ 10.0	▲ 10.8	▲ 34.1	▲ 11.3	▲ 15.4	▲ 10.6
建設業	▲ 33.3	▲ 18.2	▲ 36.8	▲ 30.0	5.6	▲ 22.7	▲ 5.2	▲ 27.8	▲ 21.0	▲ 23.8	▲ 30.0	▲ 31.6	▲ 38.1
製造業	4.2	▲ 5.0	5.0	4.5	▲ 4.5	▲ 20.0	▲ 15.7	▲ 35.0	▲ 10.6	▲ 57.9	▲ 11.1	▲ 44.5	▲ 50.0
卸売業	0.0	▲ 7.7	▲ 20.0	▲ 16.7	0.0	7.7	▲ 9.1	0.0	30.0	0.0	▲ 7.7	27.3	15.4
小売業	▲ 12.5	▲ 25.0	▲ 27.3	▲ 37.0	▲ 50.0	4.2	4.3	0.0	0.0	▲ 16.0	4.1	0.0	8.7
飲食業	▲ 43.7	▲ 15.0	▲ 35.0	▲ 82.4	▲ 66.7	▲ 29.4	▲ 21.0	16.6	▲ 56.2	▲ 80.0	▲ 47.0	▲ 21.5	▲ 21.5
サービス業	▲ 4.5	▲ 9.5	▲ 15.9	▲ 22.5	▲ 20.0	▲ 20.4	▲ 7.1	▲ 10.0	▲ 4.7	▲ 31.0	2.4	▲ 12.5	7.1

営業利益DI（全産業・前年同月比）の推移



◇ 向こう3カ月の見通し ◇

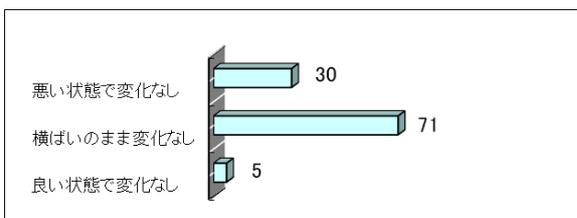


○令和4年6月～令和4年8月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ0.74ポイント上昇し12.03%、「下降しそう」が0.21ポイント上昇し8.27%となった。業種別の見通しDIは建設業(▲4.7)、製造業(▲5.0)、卸売業(0.0)、小売業(8.7)、飲食業(7.1)、サービス業(9.6)であった。

➡「上昇しそう」では「新年度分の公共工事が発注されるため」(建設業)「5月が一時的に悪かったため」「受注の増加が見込まれるため」(製造業)「本格的な観光シーズンに入るため」「職業訓練応募者数が安定的に推移しているため」(サービス業)といった声が寄せられた。また「新型コロナウイルス感染症の影響が収まってきているため」「観光客が増えてきているため」といった声が多数寄せられた。

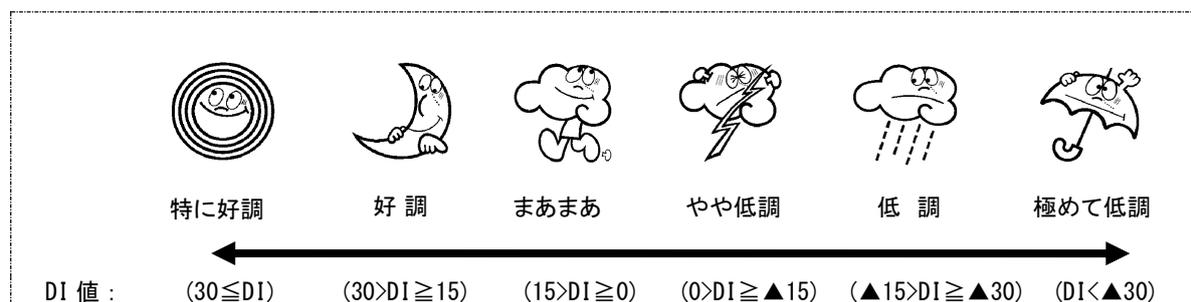
➡「変わらない」では「with コロナに伴うDX や SDGsによる予算削減の影響が出ているため」「部品の不足のため」(製造業)「自助努力により極力減益をなくすため」(小売業)「インバウンドが一部解禁されても個人客が入れないため」(サービス業)といった声が寄せられた。

➡「下降しそう」では「物件が少ないため」(建設業)「夏場は閑散期の上に今年も観光客が大幅に増えるとは思えないため」(製造業)「これからの時期は自家栽培野菜の収穫が多く売上が減少する。また、暑くなり人出が少なくなるため」「半導体設備の投資が一段落しそうなため」(卸売業)「1年ほど取り組んでいたプロジェクトが終了し、今後は未定のため」(サービス業)といった声が寄せられた。また「資材等の高騰の影響を受けているため」といった声が多数寄せられた。



業種別景況

<DI | 君の景況判断>



1. 建設業



【項目別DIの推移】

	R3年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月
売上高	▲ 33.4	▲ 18.2	▲ 26.3	▲ 25.0	22.2	▲ 4.5	15.8	▲ 5.5	▲ 15.8	▲ 23.8	▲ 25.0	▲ 15.8	▲ 19.1
受注量	▲ 28.5	▲ 18.2	▲ 36.8	▲ 20.0	0.0	0.0	▲ 5.3	▲ 38.9	▲ 31.5	▲ 42.9	▲ 30.0	▲ 21.0	▲ 23.8
受注単価	▲ 19.0	▲ 9.1	▲ 15.8	▲ 10.0	▲ 5.6	▲ 9.1	5.3	▲ 11.1	▲ 15.8	▲ 19.0	▲ 10.0	10.5	▲ 4.7
営業利益	▲ 33.3	▲ 18.2	▲ 36.8	▲ 30.0	5.6	▲ 22.7	▲ 5.2	▲ 27.8	▲ 21.0	▲ 23.8	▲ 30.0	▲ 31.6	▲ 38.1
見通し	14.2	4.5	0.0	5.0	11.1	▲ 4.5	▲ 5.3	▲ 5.5	▲ 15.8	▲ 19.0	▲ 5.0	0.0	▲ 4.7

<経営者の目・見方・etc>

土木工事

・先月同様、鋼材の価格が安定しないため、今後の受注量について慎重に対応していく必要がある。

・資材価格の高騰、燃料費アップのダメージはかなり深刻である。高騰分に対する100%の価格転嫁は難しい。

電気工事

・物価が上がっているのに年金は減額している。2016年の法改正が原因だと考えている。

建築工事

・全体的に資材の値上がりに歯止めがかからない。また、いまだに間に合わない状況が変わらないため会社の売上に繋がらない。

総合建築

・値上げが止まらない。

・資材の高騰に皆頭を悩ませている。設計単位に反映されるのは早くても半年後になる。

2. 製造業



【項目別DIの推移】

	R3年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月
売上高	16.7	25.0	35.0	22.7	4.6	10.0	▲ 5.2	▲ 5.0	10.5	▲ 52.7	0.0	▲ 16.6	▲ 10.0
受注量	8.3	25.0	25.0	9.1	4.6	10.0	▲ 5.2	▲ 10.0	5.2	▲ 47.4	5.5	▲ 22.2	10.0
受注単価	0.0	5.0	0.0	▲ 9.1	▲ 9.1	5.0	5.3	▲ 5.0	▲ 10.5	▲ 21.0	▲ 5.5	11.1	5.0
営業利益	4.2	▲ 5.0	5.0	4.5	▲ 4.5	▲ 20.0	▲ 15.7	▲ 35.0	▲ 10.6	▲ 57.9	▲ 11.1	▲ 44.5	▲ 50.0
見通し	0.0	▲ 5.0	▲ 25.0	▲ 27.3	▲ 9.1	▲ 20.0	▲ 36.8	▲ 20.0	▲ 15.8	5.3	▲ 22.2	▲ 16.7	▲ 5.0

<経営者の目・見方・e t c>

精密機器組立
精密機械

- ・上海のロックダウンの影響で部品調達が思うようにいかなかった。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響というよりも脱中国、脱ロシアの世界的な動きによる価格高騰や品不足、物流停滞などの影響が心配である。新しい枠組みができるまでには数年かかると思われるが、しばらくの間相当注意して経営する必要があると思われる。

印刷

- ・原材料や諸経費の高騰による価格転嫁を進めているものの、上げ幅を飲み込むような勢いで諸経費の値上げ通知がディーラー、メーカーから届いている。

紙器

- ・段ボールシートが値上げになり4月より価格転嫁しているところである。

民芸木工家具

- ・値上げの影響がどこまで出るか、どこまで続くか非常に心配である。

金属塗装

- ・稼働日が少ない分親会社の生産が落ち、受注量も減少し売上も落ちた。また、原材料費、燃料費の高騰が利益を圧迫している。

食料・飲料

- ・原材料の供給不安を感じる。

清酒製造業

- ・イベントが再開され上向きの流れを感じている。

3. 卸売業

売上高	受注量	受注単価	営業利益	今後3ヵ月
				
好調	まあまあ	特に好調	好調	まあまあ

(各項目別前年同月比)

【項目別DIの推移】

	R3年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月
売上高	10.0	7.7	▲ 10.0	▲ 25.0	0.0	7.7	9.1	8.3	40.0	40.0	23.1	54.5	23.1
販売客数	0.0	▲ 15.4	▲ 10.0	▲ 16.6	▲ 25.0	7.7	9.1	▲ 16.7	10.0	▲ 10.0	7.7	18.2	7.7
販売客単価	30.0	15.4	10.0	▲ 8.3	0.0	23.1	36.4	8.3	40.0	20.0	30.8	36.4	38.5
営業利益	0.0	▲ 7.7	▲ 20.0	▲ 16.7	0.0	7.7	▲ 9.1	0.0	30.0	0.0	▲ 7.7	27.3	15.4
見通し	▲ 10.0	▲ 7.7	▲ 30.0	▲ 16.7	16.7	7.7	▲ 9.1	▲ 25.0	0.0	10.0	0.0	▲ 9.1	0.0

<経営者の目・見方・e t c>

青果

- ・4月5月と野菜果物共に単価が昨年比の2割程高く推移し、特に玉葱の価格が高騰した。長野県産の出荷が始まり、少しずつ落ち着いた価格になるのではないかと。

青果卸小売業
土産品

- ・野菜の高騰により買い控えが感じられた。
- ・新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたと共に売上も増加し、人の動きも活発になり、厳しい状況は脱したと思う。県民割などの利用が大きく貢献している。

機械工具

- ・相変わらずの部品不足、材料不足による生産調整が起きている。自動車系では一時的に週休3日または4日になった工場もあった。電気代が昨年の1.3倍、ガス代が1.8倍、ニッケルメッキ代が2015年比で3.3倍になった。

金属製品

- ・高炉メーカーは更なる値上げを要請している。電炉メーカーはスクラップ価格が下降したが横ばいの状況である。商品によっては高炉と電炉の価格差が出始めている。建機、産機、工作機械の仕事量は概ね横ばいで推移している。

自転車

- ・商品の入荷が遅れている。上海のロックダウンが解除になり物流が元通りになればいいが、先が読めない。品薄状況は続きそうである。外出する人が多くなり修理依頼が増えているが、交換部品も品薄である。

4. 小売業

売上高	受注量	受注単価	営業利益	今後3ヵ月
				
好調	好調	まあまあ	まあまあ	まあまあ

(各項目別前年同月比)

【項目別DIの推移】

	R3年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月
売上高	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 13.6	▲ 48.2	▲ 45.9	20.9	13.0	9.1	4.4	▲ 28.0	4.2	4.5	26.1
販売客数	▲ 4.1	▲ 20.8	▲ 13.7	▲ 44.5	▲ 50.0	8.3	13.1	0.0	▲ 4.4	▲ 32.0	▲ 4.2	4.6	17.4
販売客単価	▲ 8.4	▲ 29.2	▲ 13.7	▲ 29.6	▲ 20.9	4.2	▲ 13.1	27.3	0.0	4.0	16.7	0.0	8.7
営業利益	▲ 12.5	▲ 25.0	▲ 27.3	▲ 37.0	▲ 50.0	4.2	4.3	0.0	0.0	▲ 16.0	4.1	0.0	8.7
見通し	▲ 20.8	▲ 8.3	▲ 13.7	▲ 14.8	0.0	12.5	▲ 8.7	▲ 27.3	4.3	▲ 12.0	0.0	4.6	8.7

<経営者の目・見方・etc>

印章

・天候に恵まれて、GWからクラフトフェアまつもと2022の月末まで人通りが多かった。今年に入って既製認印の販売本数が昨年比で約半分に減っている。捺印不要の波が止まらない。

印章・刃物研ぎ

・連休やクラフトフェアまつもと2022、天候も嬉しいし人出も多くなり、商売に繋がった。

ガラスサッシ

・全てのものが値上がりしこれからの生活が不安である。物価対策を最優先に考えてほしい。

化粧品

・各商店街の活力が心配である。個店の魅力づくりや商店街への消費者導入の意気込みを強くしていきたい。

手芸用品

・クラフトフェアまつもと2022が無事に開催できたので人出はあったが、まだコロナ禍以前に戻った様子ではなかった。

洋菓子店

・材料の高騰が気になるところである。ただ値上げをするのではなく、いかにして付加価値を加えられるかが大切になる。5月から11月は洋菓子業界は落ち着く時期になるので色々考えたい。

和菓子

・多くの幅広い年代の方が訪問されるようになった。

生鮮食品

・5月の第2日曜日が母の日なので連休中から母の日まで忙しく、昨年より売上が多かった。まだ皆で外食するとは聞かないので家族で少し贅沢しているのかも知れない。

パン

・去年と比べてGWからお客様の動きが良い。GW終了後も客数に大きな変動はなく順調な売行である。

おやき

・大型連休でそれなりの売上はあったが、コロナ禍前の連休よりは大幅に少なかった。近隣の飲食店等も同様の様子であった。

味噌・しょうゆ

・原材料価格が高騰しているがすぐには値上げできない。

5. 飲食業



【項目別DIの推移】

	R3年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月
売上高	▲ 31.3	▲ 10.0	▲ 25.0	▲ 82.4	▲ 61.1	▲ 17.6	5.3	16.6	▲ 50.0	▲ 80.0	▲ 35.3	0.0	7.2
販売客数	▲ 37.5	▲ 5.0	▲ 25.0	▲ 76.5	▲ 66.7	▲ 23.5	10.5	16.6	▲ 62.5	▲ 86.7	▲ 35.3	7.2	0.0
販売客単価	▲ 56.2	▲ 20.0	▲ 15.0	▲ 52.9	▲ 44.4	▲ 29.4	▲ 10.5	5.5	▲ 37.5	▲ 53.3	▲ 35.3	▲ 7.2	0.0
営業利益	▲ 43.7	▲ 15.0	▲ 35.0	▲ 82.4	▲ 66.7	▲ 29.4	▲ 21.0	16.6	▲ 56.2	▲ 80.0	▲ 47.0	▲ 21.5	▲ 21.5
見通し	0.0	5.0	▲ 15.0	▲ 29.4	0.0	5.9	▲ 5.2	▲ 33.3	▲ 43.8	13.3	11.8	7.2	7.1

<経営者の目・見方・e t c>

- | | |
|------|---|
| 料理 | ・連休中は店を休んでいたため、その後もお客様の出足が悪かった。 |
| 郷土料理 | |
| 創作料理 | ・GWが行動制限のない連休となったため、数年ぶりの人出となった。土日も観光客が増えた。修学旅行も再開されたようで、他県からの学生の来店もあった。明るい兆しが見え始めてた。 |
| そば | ・相変わらず新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、5月の松本市の感染者数は下げ止まり傾向で、連休も実家に帰郷してきた話は耳に入ったが、通常であれば仕出しの注文が入る期間もゼロだった。ましてや来客の予約もゼロに終わってしまった。世の中の変化を感じた1ヵ月であった。報道では景気回復に向けて様々な事がされているが、この地域ではどのような回復となっていくのか、未だ先が見えない。 |
| 寿司 | ・昨年、一昨年の5月と比較できない程のお客様に来店して頂いた。1日でも早くコロナ禍前の水準に戻るよう願うばかりである。 |
| 食堂 | ・今年のGWは観光地はどこでも人出が多く、2年ぶりに忙しいと感じたが、月末にかけては静かになり、まだまだコロナ禍前には戻らないと思った。 |
| 居酒屋 | ・今年の連休は忙しかった。3年ぶりのクラフトフェアまつもと2022は大変賑わった。イオンモール周辺は大渋滞で久々の大入りだった。 |
| | ・GWの観光客は増えたがその後の新型コロナウイルス感染者数増加につれ、人出が少なくなった。 |

6. サービス業

売上高	受注量	受注単価	営業利益	今後3ヵ月
				
好調	まあまあ	まあまあ	まあまあ	まあまあ

(各項目別前年同月比)

【項目別DIの推移】

	R3年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月
売上高	13.6	0.0	0.0	▲15.0	▲17.5	▲20.5	▲7.1	▲2.5	0.0	▲12.0	9.8	5.0	19.0
販売客数	2.3	0.0	▲6.8	▲22.5	▲17.5	▲27.3	▲14.3	▲10.0	4.7	▲23.8	▲4.8	▲2.5	11.9
販売客単価	▲9.1	▲4.8	▲9.1	▲7.5	▲10.0	▲22.8	▲4.8	▲12.5	▲2.3	▲14.3	0.0	0.0	0.0
営業利益	▲4.5	▲9.5	▲15.9	▲22.5	▲20.0	▲20.4	▲7.1	▲10.0	▲4.7	▲31.0	2.4	▲12.5	7.1
見通し	▲2.3	14.2	▲18.2	▲7.5	10.0	▲13.7	▲7.2	▲17.5	▲20.9	2.3	2.5	15.0	9.6

<経営者の目・見方・etc>

旅館

- ・観光客の増加、また予約問い合わせが多くなってきているが、受け入れの従業員不足に困り、お断りする場合がある。
- ・県民割の利用者のお陰である程度収入があったが、物価高により効果は期待できない。

温泉旅館

- ・信州割SPECIALの影響で客足は非常に好調である。物価高は売価に転嫁しているが、エネルギーに加えて夏に向かって食品にも影響が出ているのでこれから先どうなるか分からないのが本音である。家計を圧迫して旅行を取りやめる可能性も出てくるのではないだろうか。
- ・新型コロナウイルス感染症のワクチン接種回数も多くなり、免疫性も出て安心感もあり、安心して外出できる世の中になった。5月は宿泊客も増加した。

観光旅館

- ・GWの3日と4日はコロナ禍以前のような賑わいだったが、終盤は急に人がいなくなってしまった。コロナ禍以前は連休後に海外の個人客が多く来てくれていたがそれもなくなり5月末までは泊りの入込は芳しくなかった。しかし、日帰りのバスツアーがやっと復活し、日中も観光客が出歩くようになった。焼岳が噴火警戒レベル2になり登山することができないので登山客のキャンセルが多くあった。一日でも早いレベルダウンを望んでいる。

宿泊

- ・インバウンドの一部再開により、観光業に少しずつ光があたり始めることを期待する。一方で物価高騰への対処に苦慮することになりそうである。

ホテル

- ・クラフトフェアまつもと2022が再開され段々とはあるがコロナ禍以前のようになっている。
- ・レストラン、宿泊、会議は回復傾向。宴会の予約は入るがキャンセルが多い。

ホームクリーニング・リネンサプライ業

- ・売上はコロナ禍以前に戻りつつあるが、原材料や燃料の高騰が激しく価格への転嫁が追い付かない。いつまで上がり続けるのか不安である。

自動車整備・板金塗装

- ・連休が続き月の売上が落ちている。更に物品の値上げ続きで、当社も値上げせざるを得ない状況である。半導体不足の解消もなく、自動車の生産が間に合わず、ユーザーにも迷惑を掛けてしまっている。先行きは不透明である。

機械設計	<ul style="list-style-type: none"> •まだ物不足が続いている。皆が余分に頼んだり、在庫にしたりしているの でより悪循環を招いている。ロシアウクライナ問題で価格も上昇している。
建築設計・工事監理	<ul style="list-style-type: none"> •官公庁の入札通知が出るようになった。
ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> •通常、システム開発は長期にわたるため、すでに着手している案件につい ては影響はないが、原料や運賃など経費の高騰は将来的なシステム予算 を取り崩している。本来厳しい経済状況を乗り越えるためのシステム改善 であるが、本末転倒になっている点が非常に残念である。
タクシー	<ul style="list-style-type: none"> •上旬の連休中の観光地は昨年よりは人が多かったが、上高地公園線は開 通直後に土砂崩れの発生があったので、中旬以降の客数はまだまだ少な かった。
倉庫	<ul style="list-style-type: none"> •値上げ前の買い溜めによって原料在庫が増えている。
ペットサービス	<ul style="list-style-type: none"> •GW中のホテル利用を期待していたが、思ったより利用件数が少なかっ た。やはり海外渡航の制限があるため、海外旅行に行く人がまだ少ないた めだろう。新型コロナウイルス感染症が流行る前に戻るのはまだ難しいと思 う。
獣医	<ul style="list-style-type: none"> •6月1日、犬や猫の繁殖、販売業者にマイクロチップの装着を義務付ける改 正動物愛護法が施行された。有事の際、飼い主を特定しやすくなったり、 安易な遺棄防止に繋がることも期待される。一般家庭のペットは努力義務 となっている。業況はまずまずである。狂犬病の集合予防注射が各地で始 まった。万が一狂犬病が発生した場合、流行は70%以上のワクチン接種 で抑えることができるのはエビデンスがある。4～6月が法定の接種時期と なるため、集合会場か動物病院で済ませてほしい。経営は良好である。
リラクゼーション	<ul style="list-style-type: none"> •人は動き始めたように感じるが、売上にはつながっていない。